



子育て・保育・食育・教育

# 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果

令和3年9月作成  
遠野市教育委員会

令和3年5月27日に実施された全国学力・学習状況調査の集計結果について、文部科学省から提供されましたので、その概略的な分析等を公表します。学校と家庭・地域が、連携をさらに深め、遠野の子どもたちの「知・徳・体」バランスのとれた成長のために、参考にしてくださいと思います。

## 1 調査の目的（実施要領から抜粋）

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象とする児童生徒

- (1) 小学校調査：小学校第6学年 181名（市内11校全校参加）
- (2) 中学校調査：中学校第3学年 220名（市内3校全校参加）

## 3 調査内容の概要

### (1) 調査実施日

令和3年5月27日（木）

### (2) 児童生徒に対する調査

#### ① 教科に関する調査

小学校調査：国語・算数      中学校調査：国語・数学

#### ② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する意識調査

### (3) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件整備の状況等に関する調査

## 4 調査結果の概要について

### (1) 全国と比較した各教科の正答率の概要

	小学校	中学校
国語	全国平均を下回る	概ね全国平均
算数・数学	全国平均を下回る	全国平均を下回る
-	-	-

【判断基準】全国平均正答率と遠野市正答率との比較  
「概ね全国平均」＝±5ポイント未満  
「全国平均を上回る」＝+5ポイント以上  
「全国平均を下回る」＝-5ポイント以下

### (2) 全国と比較した質問紙の肯定的回答の概要

	小学校	中学校
全国を上回る	35項目	41項目
概ね全国並み	18項目	11項目
全国を下回る	0項目	1項目

【判断基準】全国の肯定的回答の割合と遠野市の肯定的回答の割合比較  
「概ね全国並み」＝±5ポイント未満  
「全国を上回る」＝+5ポイント以上  
「全国を下回る」＝-5ポイント以下

## 5 「教科に関する調査」の結果分析について

成果：全国と比較して正答率が高い学習内容。 課題：全国と比較して正答率が低い学習内容。

### ① 国語

	成 果	課 題
小学校	○目的や場面に応じて、理由を明確にしなが ら自分の考えが分かるように書き表し方 を工夫すること。	▼目的に応じ、話の内容が明確になるよう にスピーチの構成を工夫すること。 ▼文章全体の構成を捉え、内容の中心となる 事柄を把握すること。
中学校	○話合いの話題や方向を捉えること。 ○相手や場に応じて敬語を適切に使うこと。	▼登場人物の言動の意味を考え、内容を理解 すること。 ▼事象や行為などを表す多様な語句につい て理解すること。

#### 【小学校】

課題となっているのは話や文章が「どのように」構成されているかを捉える問題です。何についてどんな順序で構成されているのか、それは何のためかなどを確かめながら文章を読んだり話を聞いたりすることが大切です。

#### 【中学校】

中央教育審議会答申は「学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘しています。わからない言葉があったら積極的に辞書を引いて意味を確かめ、新しく覚えた言葉はどんどん使って使いこなせるようにしていくことが大切です。

### ② 算数・数学

	成 果	課 題
小学校	○速さと道のりなど「変化と関係」の領域。 ○棒グラフの読み取りなど「データの活用」 の領域。	▼三角形の面積など「図形」の領域。 ▼問題形式が「記述式」の問題。
中学校	○関数の意味理解や、与えられた表やグラフ から必要な情報を読み取るなど「関数」の 領域。	▼計算や立式などの「数と式」の領域。 ▼事柄が成り立つ理由や事柄の特徴を数学 的に「説明する」ことを求められた問題。

#### 【小学校】

16問中13問で無回答率が全国を下回っていて、粘り強く問題に取り組んだことが見えます。

図形では、図形を構成する要素に着目して、図形概念や図形の構成・分解、図形の性質、図形の計量的考察の充実を図ることが大切です。

#### 【中学校】

文字を用いた式の計算が確実にできるようにするために、計算の法則を確認したり、計算の過程を振り返ったりする活動を取り入れることが大切です。また、考えたことを「説明する」活動を取り入れ、結果だけではなく、過程に注目することも大切です。

## 6 「児童・生徒質問調査」の結果分析について

### ① 家庭学習に対する意識

ア) 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日どれくらいの時間、勉強をしますか？（学習塾・家庭教師に教わることも含む）

■ 3時間以上 ■ 2～3時間 ■ 1～2時間 ■ 30分～1時間 ■ 30分以下 ■ 全くしない

#### 小学校

2時間以上の家庭学習に取り組んでいる児童について、全国と比較すると、約マイナス11ポイントと低いですが、1時間以上家庭学習に取り組んでいる児童が8割を超え、全国よりも良好な状況です。

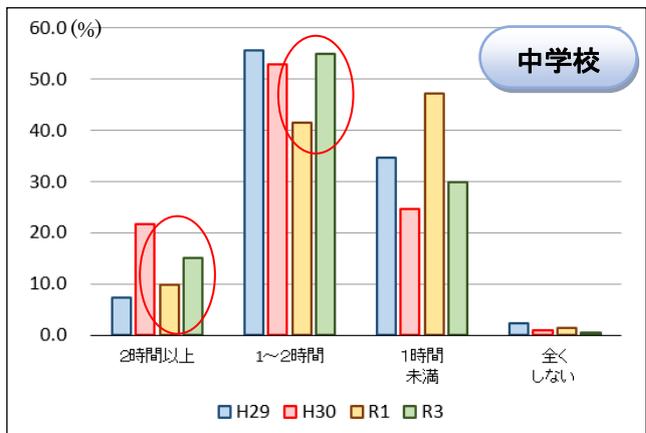
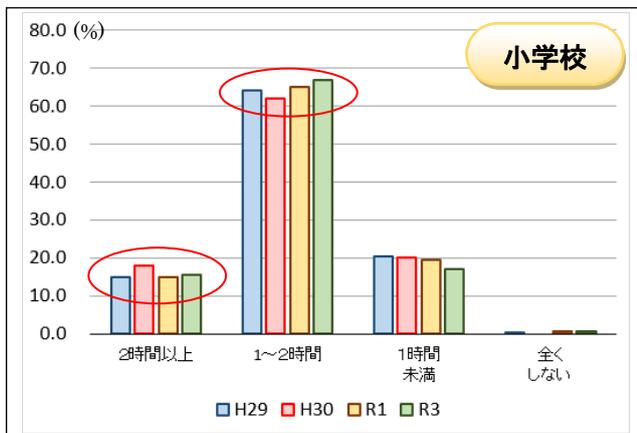


#### 中学校

2時間以上の家庭学習に取り組んでいる生徒が約15%となっており、全国と比較しても大きく落ち込んでいます。毎日の部活動がある中で、いかに家庭学習の時間を確保していくか、各家庭でご支援をお願いします。



### イ) 家庭学習時間の経年推移



今年度の中学校3年生は、昨年度より家庭学習の時間が多い傾向にあります。小学校6年生の家庭学習時間は例年並みの様子が見られます。

「どのくらいの時間学習するか」ということと「どんな内容の家庭学習をするか」という量と質の面から家庭学習の充実を図りましょう。

## ② 各教科に対する意識

各質問に対する肯定的回答（「当てはまる」及び「どちらかといえば当てはまる」）の割合

（単位 %）

	質問内容	小学校		中学校	
		遠野市	全国	遠野市	全国
興味 関心 意欲	国語の勉強は好きですか？	67.4	58.4	73.0	60.8
	算数(数学)の勉強は好きですか？	69.6	67.8	66.2	59.1
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか？	94.4	91.8	96.4	88.7
	算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか？	97.2	92.6	88.2	74.6
理解	国語の授業の内容はよく分かりますか？	88.4	84.2	85.0	80.1
	算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか？	86.7	84.6	77.6	74.6
活用	国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか？	86.7	82.2	88.6	81.8
	算数(数学)の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか？	84.5	73.9	65.7	50.6

※表中の赤数字は全国を上回る数値。青数字は全国を下回る数値。

### ア) 国語

小中ともに、国語の学習に向かう姿勢が全国と比較して良好な状況にあります。ただ、小中ともに「好きではない」と感じている児童生徒が4割前後いることも事実です。また、「よく分かりますか？」の質問に「どちらかといえば当てはまる」というやや消極的な肯定意見が小学校では4割以上、中学校では5割以上見られます。

将来、社会に出たときに役に立つという実感を持たせられるような、国語を勉強してよかった、とますます感じられるような授業改善に努めていきます。

### イ) 算数(数学)

小中ともに、算数(数学)の学習に向かう姿勢が全国と比較して良好な状況にあります。ただ、小中ともに「好きではない」と感じている児童生徒が4割程度いることも事実です。また、「よく分かりますか？」の質問に「どちらかといえば当てはまる」というやや消極的な肯定意見が小学校では3割以上、中学校では4割以上見られます。

日常生活の場面と結び付けたり、算数・数学を学ぶことの良さを実感させたりしながら、より一層「わかる・できる」授業づくりに努めていきます。

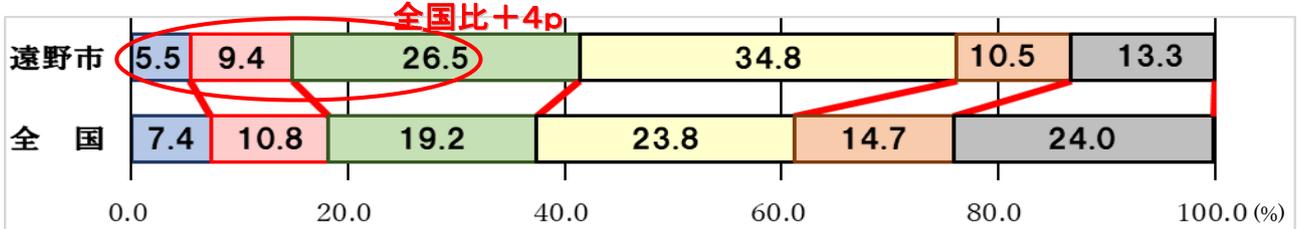
### ③ 読書とゲーム

ア) 学校の授業時間以外に、普段、1日どれくらいの時間読書をしますか？

■ 2時間以上 ■ 1～2時間 ■ 30分～1時間 ■ 10～30分 ■ 10分以下 ■ 全くしない

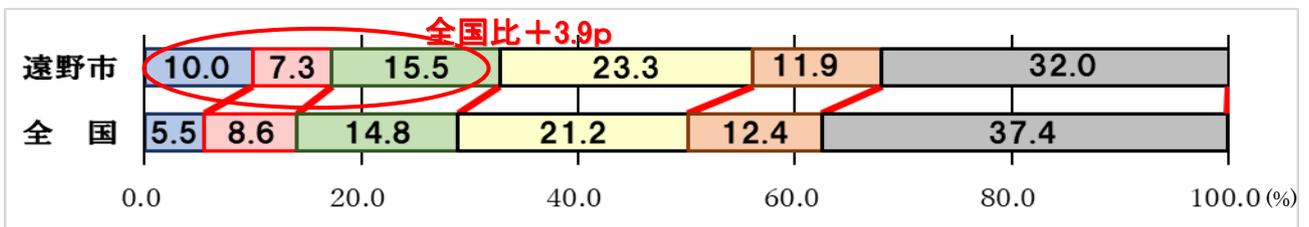
#### 小学校

30分以上の読書に取り組んでいる児童が4割以上います。全国と比較するとプラス4ポイントとなっています。また、不読率も全国よりも低く、毎日少しでも読書に取り組む児童は全国よりも良好な状況にあります。



#### 中学校

30分以上の読書に取り組んでいる生徒は、全国と比較してプラス3.9ポイントでした。また、不読率も低く、全国と比較して良好な状況にあります。しかし、32%もの生徒が読書をしていない状況は今後の改善点です。

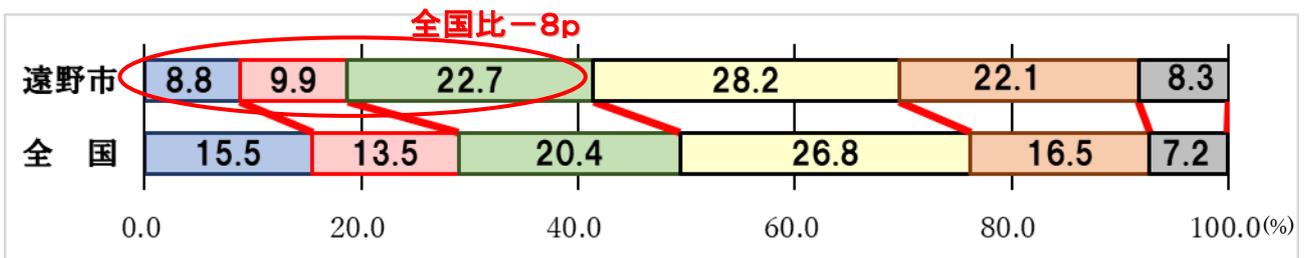


イ) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか？

■ 1:4時間以上 ■ 2:3～4時間 ■ 3:2～3時間 ■ 4:1～2時間 ■ 5:1時間以下 ■ 6:全くしない

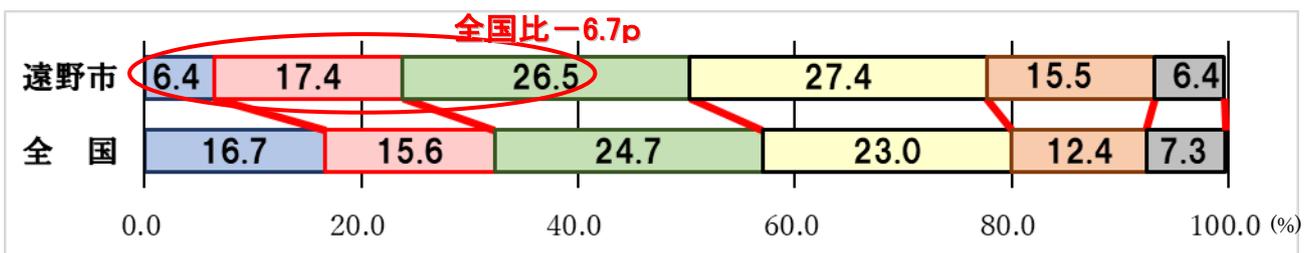
#### 小学校

2時間以上ゲームをしている児童が4割以上いますが、全国と比較するとマイナス8ポイントとなっています。「4時間以上」という児童も見られます。一日の時間の使い方の見直しを図りたいところです。



#### 中学校

2時間以上ゲームをしている生徒が5割以上いますが、全国と比較するとマイナス6.7ポイントとなっています。家庭学習の時間、読書の時間も含めた時間の使い方の見直しを図りたいところです。



④ 遠野市の児童生徒の特長（肯定的回答）のみを抽出し、全国平均を100とした場合の状況）

※肯定的回答：「当てはまる」及び「どちらかと言えば当てはまる」の両回答の割合合計

ア) 授業に臨む姿勢・態度に関する調査

質問項目	小学生	中学生
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか？	113	113
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか？	111	116
各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか？	116	130

小中ともに、積極的に授業に臨んでいる様子が分かります。授業内での話し合い活動を通じて互いに考えを深め合い、授業での学びを活用している様子も見られ、全国と比べてたいへん良好な状況にあります。

イ) 夢や目標・道徳性に関する調査

質問項目	小学生	中学生
自分には、よいところがあると思いますか？	108	108
将来の夢や目標を持っていますか？	109	112
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか？	118	119
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか？	116	122
人が困っているときは、進んで助けていますか	102	103
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	101	103

「自分にはよいところがあると思うこと」を「自己肯定感」と言います。「自己肯定感」を強くもっている人は、何事にも自信をもって向かい、自分のもてる力を100%発揮することができると言われていています。小中ともに「自己肯定感」をしっかりと持つ児童生徒が多く、目標に向かい頑張っている様子が分かります。

ウ) 地域や社会に対する意識調査

質問項目	小学生	中学生
今住んでいる地域の行事に参加していますか？	135	166
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか？	106	140

遠野市は、全国と比較して、地域との絆・つながりがたいへん強いことが分かります。特に、地域行事への参加率、そして地域に貢献したいという気持ちを持っている児童生徒が多いことは、全国に誇るべき状況です。

⑤ 課題の見られた質問（肯定的回答の割合が全国と比較して、5ポイント以上下回った設問）

全国を大きく下回る質問について、小学校はありませんでした。

中学校は、「数学の解答時間は十分でしたか」の1問でした。「やや時間が足りなかった」と感じる生徒が多かったようです。問題把握や処理の速度向上も含め数学の課題改善に向けて、今後とも努めてまいります。

## 7 改善に向けて

本調査から、見られた小中学生の状況を総括します。

	小学生	中学生
教科の正答率	<b>国語</b> ：全国平均を下回っている。 <b>算数</b> ：全国平均を下回っている。	<b>国語</b> ：概ね全国平均となっている。 <b>数学</b> ：全国平均を下回っている。
読書・ゲーム	<b>読書</b> ：全国と比して良好な状況。  <b>ゲーム</b> ：全国と比して良好な状況ではあるが、時間の使い方の見直しは必要。	<b>読書</b> ：全国と比して良好な状況ではあるが、3割の生徒は読書をしていない状況にある。  <b>ゲーム</b> ：全国と比して良好な状況ではあるが、時間の使い方の見直しは必要。
児童生徒の特長・よさ	<b>授業への姿勢</b> ：意欲もあり積極的。 <b>授業の理解</b> ：約9割の児童が「分かる」。 <b>地域参加</b> ：地域とのつながりが強い。	<b>授業への姿勢</b> ：意欲もあり積極的。 <b>授業の理解</b> ：8割程度の生徒が「分かる」。 <b>地域参加</b> ：地域とのつながりが強い。
家庭学習	<b>学習時間</b> ：2時間以上取り組んでいる児童は全国に比して少ないが、1時間以上の割合では高いことから、学習の内容より目安の時間を意識した家庭学習になっている様子が見える。	<b>学習時間</b> ：小学生の学習時間よりも短い状況。本調査の数学について「解答時間が足りなかった」と感じる生徒が多いことから問題演習等の量的不足は明確な状況。

以上のことから、下記の点に取り組んでいきます。

### (1) 遠野市教育委員会では

義務教育9年間で踏まえた指導の充実を図るため、小学校・中学校の連携を推進するとともに、以下の3つの柱について学校を支援し、確かな学力の育成に努めます。

- 【柱1】児童生徒が主体となる授業改善
- 【柱2】学校の組織的な取組
- 【柱3】家庭学習取組

#### ①中学校区ごと、小中共通の課題に基づく授業改善及び授業交流会の実施

- ・第1回授業交流会  
(遠中学区：R3.5.26 東中学区：R3.6.22 西中学区 R3.6.3)
- ・第2回授業交流会  
(遠中学区：R3.9.30 東中学区：R3.9.16 西中学区 R3.10.28)

#### ②研究指定校による授業実践交流会（公開研究会）の実施

- ・遠中学区：遠野小学校(R3.11.9)
- ・東中学区：土淵小学校(R3.10.12)
- ・西中学区：遠野西中学校(R3.11.5)

#### ③指導力向上のための各種研修会等の実施

- ・全体研修会(R3.7.30 会場：あえりあ遠野 ほか)

④中学校に特定教科学習支援員を配置（数学）

⑤中学3年の英語検定受験費用全額補助及び英検対策講座の実施、中学1・2年に英検 IBA テストの実施

- ・英検講座4回の実施(9/5、9/20、10/2、11/3)
- ・英検 I B A（2月中旬～下旬 各中学校で実施）

⑥一人一台端末を活用した児童生徒個々の状況に応じた最適な学習の推進

- ・家庭での学習にいかせるよう、家庭への持ち帰りや学習支援ソフトの導入等について検討しています。

## （2）各学校では

①授業改善【重点】

- ・中学校区の研究、校内研究、一人一授業等

②家庭学習の充実【重点】

- ・量の確保
- ・授業と家庭学習の連動
- ・個別最適な課題

③諸調査結果の分析に基づく指導改善

④「まなびフェスト」等での家庭との連携の取組

## 8 家庭・地域の皆さんへ

遠野市の児童生徒は、地域への愛情を強くもっており、地域の将来について考え、今の自分ができることについて、よく考えています。また、全国と比較して、道徳性や社会性など、健全に成長しています。それは、各家庭や地域社会全体で、子どもたちの将来への見通しを持ちながら、育てていただいている成果の賜物と受けとめています。引き続き、子どもたちの健やかな成長のために、学校・家庭・地域がしっかりと協力しながら、子どもたちの成長を見守ってくださいますようお願いいたします。

教科に対する好き嫌いはあるものの、将来に向けてどの学習も頑張りたいという子どもたちの思いを大切にして、各学校においては、授業改善を中心として学習面についての課題解決に取り組んでいます。各家庭におかれましては、子どもたちの学習に対する前向きな気持ちが行動につながるよう、改めて家庭学習時間の約束をお子様に考えさせるなど、本分析結果を参考にしながら、ご支援をお願いします。